

ほうレンソウ

栽培のポイント

① 石灰で土壌の酸性を中和しておきましょう

ほうレンソウは土壌の酸性が強いと生育が悪くなるので、種をまく2週間ほど前に石灰などを施して中和しておきましょう。

② 発芽をそろえることが肝心

種をまく時は、溝の深さを均一にして薄く土をかけます。土を軽く押さえた後、表面に水が浮かない程度にたっぷり水をやりましょう。発芽するまでは表面が乾いてきたら水をやり、適度に土壌を湿らせておくことが大切です。発芽をしっかりそろえることが、よい生育につながります。

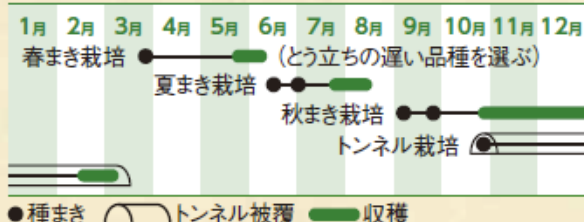
③ 間引きで品質の良いものを

生育の遅いものや葉形の悪いものは抜き取り、葉と葉が重なり合わない程度に間引きをしましょう。株が張った良品を育てるには、広めの株間がお勧めです。



品種例
・弁天丸
・牛若丸 など

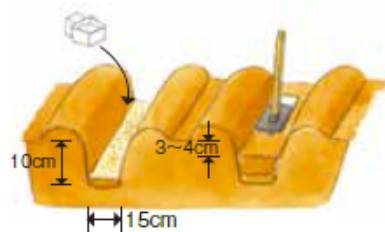
栽培カレンダー



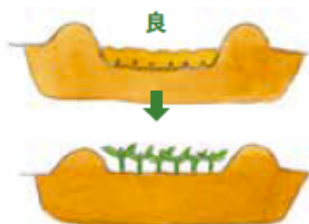
1 畑づくり

畑全面に完熟堆肥と石灰をまいて深く耕す
秋まきは台風シーズンなので、ところどころに溝をつくり、畑全体の排水対策しておく。排水不良のところは、立ち枯れが出やすい

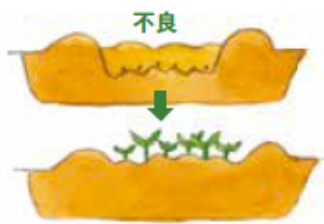
2 元肥入れ



〈畝の長さ1m当たり〉
化成肥料: 大さじ5杯
肥料の上に土をかけ、鍬で底面が平らになるようによくならす



まき溝の底面が平らで覆土の厚さが均一なら、発芽や生育がよくそろう



まき溝の底面にでこぼこがあったり、覆土の厚さにむらがあると発芽や生育が不ぞろいとなる

3 種まき

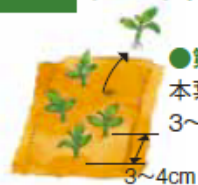
● 溝まきの場合
2cm四方くらいに1粒ずつばらまきする

● ベッドまきの場合
板切れで15cm間隔に、幅2cm、深さ1cmくらいのまき溝をつけ、1.5~2cm間隔でまきをする

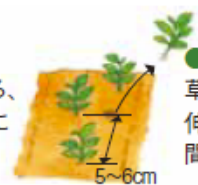
種をまく前に溝全体にたっぷり水をまいておく



4 間引き



● 第1回
本葉1枚のころ、3~4cm間隔に



● 第2回
草丈が7~8cmに伸びたとき、5~6cm間隔に

5 追肥

第1回、第2回間引きの後、畝間に化成肥料を施し、軽く耕し込む

〈畝の長さ1m当たり〉
化成肥料: 大さじ3杯

6 病害虫防除

・ヨトウムシ
周辺に雑草が多いと被害が大きい。べた掛け資材を被覆するか殺虫剤を散布する

・べた病
密植で発生しやすい。早めに殺菌剤を散布する

7 収穫

草丈が25cm程度になったら収穫する。一般的に流通しているものより大きくなって(30cmくらい)、味が楽しめる



〈トンネル掛け〉

雨よけ(夏)
遮光資材か、全面に小穴があいたフィルム。裾はあけて風を通す

遮光資材を使うと地温が低下して発芽は揃うが、生長とともに光線不足になり、軟弱徒長になりやすい。全面に小穴のあいたフィルムなら多少雨は入るが換気ができ、使い勝手が良い。どちらも裾をあけて管理する

